



は せ がわ ゆき こ  
**長谷川 幸子**

に ほん きょう さん と う つ し ぎ だん  
**日本共産党津市議団**

### 高齢者の外出支援策と交通手段の確保を

**問** 高齢者による交通事故が相次いでいる中、外出支援策とあわせ、交通手段の確保が重要である。そこで、高齢者のコミュニティバス運賃の無料化、寿無料バス券の復活、タクシー券の助成などの検討を。また、バスや電車などの公共交通を充実させ、車に頼らない環境の整備を。さらに、閉じこもり防止策として、まちづくりとあわせた外出支援、買い物支援策の構築を。

**答** コミュニティバス運賃の無料化などについては、高齢者の外出支援の観点から検討しているところであり、タクシー券の助成については、市が直接利用料を助成することは考えていないが、タクシー事業者が独自で実施している割引サービスなどの取り組みがさらに広がるよう案内していきたい。

また、公共交通の充実については、津市地域公共交通活性化協議会等を設置し、地域の実情に即した輸送サービスの実現に取り組み、きめ細かい工夫や改善を重ねている。一方で、高齢者一人一人の住環境や公共交通へのアクセス、身体の状況などがそれぞれ異なることから、きめ細かな政策の実現は非常に難しいものと認識しているが、一生懸命考えていきたい。

### ●その他の質疑・質問●

- 不登校児童の現状と対策は
- 不登校の主な要因と対策は
- 居場所づくりの確保を
- 各学校に支援教室・支援員の配置を
- スクールカウンセラーの増員を
- 新たな不登校者を出さない対策は



▲高齢者が利用しやすい交通政策を



な か む ら ま さ は る  
**中村 勝春**

けんと  
**県都クラブ**

### 指定避難所外避難者への支援体制は

**問** 熊本地震における指定避難所以外の避難者は、約3万6000人といわれているが、指定外のために、自治体側が把握に手間取り、住民の安否確認に支障が出たり、支援物資が行き渡りにくくなったりする事態が起きた。津市における指定避難所外避難者への支援体制は。

**答** 平成28年度の地域防災計画修正案の中で、テント泊や車中泊を行うための避難スペースを確保することにより、指定避難所外避難者の把握を行うとともに、救援物資等の提供や健康管理方法に配慮する旨を記載している。

また、過去の大規模災害の例から、指定避難所以外の公共施設や集会所等の施設における避難生活も考えられることから、そのような避難者への対応も同様に行う必要がある。

今後は、国・県のガイドライン等の見直し内容や先進的に取り組んでいる自治体の事例等を参考にし、津市の避難所運営マニュアルにも反映するなど、必要な措置を講じていく。

### ●その他の質疑・質問●

- 救急医療体制、救急ワークステーションの今後の対応は
- 公用車のドライブレコーダーの取付状況と管理運用は
- 市道高茶屋小森町第24号線の進捗状況と接続される市道高茶屋小森町久居線の整備について
- 市営住宅での残物放置による対応状況について
- 出張所での補助金申請等の窓口対応について
- など



▲過去の震災での避難所外避難の様子